

行橋・豊津の生活も自分なりに、形作られてきた感がありますが、それにしても幼稚園も含めているいろいろあります。その一方で、フランシスコ教皇様が私たちに対してしきりに要請しておられますが、自分がどれほど「出向いて行」っているのか？よくわかりません。これでいいのかな？とは思いますが、(お陰様でとでも申しませうか)日々の生活が大変充実しているのは確かです。



今回は皆さんに、私の方から2つのことについてお伝えしたいと思います。1つ目は、隣人愛についてです。最近聞いた話ですが、「結婚を契機に洗礼を受けられたお嫁さんが、義理のお母さんからいじめられた」というケースがあるようですね。人間関係の難しさは私もよくわかりますが、どうぞ新受洗者の方々には温かいご配慮をお願いします。

また、外国籍の方々、普段教会で顔を見ない、初めて教会に来られた方、久しぶりに来られた方への温かい声かけをよろしくお願いします。

2つ目は、信心業についてです。私が現在読んでいる“靈的読書”用の本は、教皇聖ヨハネ 23 世の『魂の日記』(ドン・ボス

コ社)です。あの第2ヴァチカン公会議を開催した教皇様です。『魂の日記』を読むと、ヨハネ 23 世の人柄がよくわかります。私から評価しても、やはり“聖人”ですね。勉強になります。

最近読んだ箇所印象に残ったのは、「自分の完徳への努力を要約した、次の輝かしい三つの言葉に、心から喜びつつ特別の注意を払おう。信心、柔和、そして愛である」「ミサ聖祭、聖務日課、ロザリオ全環などの信心業に完璧であるように引き続き努め・・・」という教皇様の決意です。

前任地の大牟田教会では、初金曜日は“十字架の道行”、5月・10月はミサ前に“ロザリオの祈り”が行われていました。因みに、久留米教会では毎日ロザリオの集いが行われているとか。

豊津・行橋の皆さんは、ミサ・勉強会・分かち合いをよく頑張っていますが・・・信心業は皆さんの自主性に任せていけば、それでいいのか？迷っています。月に1度、聖体礼拝かロザリオか十字架の道行を、教会に集っておささげする・・・今月から来月あたりからやってみようかなと思っていますが、いかがでしょうか？



井手公平